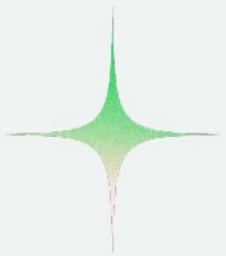


SIIF
Social Innovation
and Investment Foundation

5分でわかるSIIF

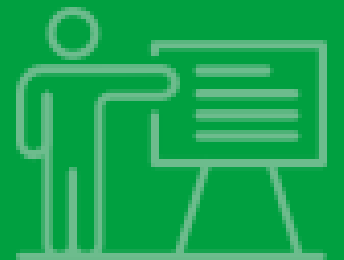


CONTENTS

01	Vision & Mission	P.03
02	事業	P.07
03	Culture & People	P.11
04	SIIF にまつわる数字	P.20
05	FAQ	P.26
06	組織概要	P.32

01

Vision & Mission



Vision

社会課題解決と多様な価値創造が
自律的・持続的に起こる社会の礎をつくる

SIIFが目指すのは、人や地域がそれぞれの幸せを実現できる包摂的な社会。
それは、人や地域がそのあり方を自ら求め、選び、創造し続けられること。

Mission

社会的・経済的資源循環のエコシステムをつくる

市場経済を中心とした自助。

中央集権的な再分配システムに基づく公助。

そして身近な助け合いの形である共助や互助。

SIIFは、これらの枠組みを超えた資金・人材・知見などの

資源の新しい循環モデルの構築を目指し、

社会的な成果に対する多様な価値のモノサシを示していきます。

創設者のメッセージ



専務理事

青柳 光昌

MITSUAKI AOYAGI

財団の名前の通り“社会変革の推進役”がアイデンティティです。その目的にかなうのなら、何をしたらいい。私はずっと“よろず屋”でいいと思っています。

SIIF（社会変革推進財団）は、「経済の力で社会課題を解決する」という理念のもと、多様なアプローチで社会変革を実装することに取り組んでいます。

事業と資金、公共と民間、投資と伴走支援など、領域を横断しながら、社会に必要な挑戦を続けています。

- ・変化を起こすために、自分たち自身が変化し続ける存在であること。
- ・明確な正解やゴールがない中で、それでも問い続け、実行する覚悟を持つこと。

SIIFは、この姿勢を大切にしながら、実験と実装を繰り返し、次の社会の「あたりまえ」を育ててきました。

立場や専門領域を超え、フラットに意見を交わし合える風土があり、個々の関心や問題意識を起点に、仕事がつくられていくダイナミズムがあります。問いを立て、自ら手を動かしながら、仲間とともに未来をつくる——そんな挑戦に共感する方を、私たちは待っています。



常務理事

工藤 七子

NANAKO KUDO

SIIFの仕事は、“ここにたどり着いたら 目標達成!”という明らかなゴールは存在しない“終わりなき旅”だと思っています。

02 事業



注力する3つの社会課題テーマ

COMMUNITY REVITALIZATION

地域活性化



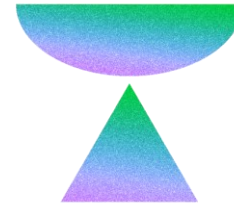
地方経済、地場産業の衰退、雇用の質・量の低下に伴う人口流出、既得権益構造の中での変化への抵抗などにより、都市への人口集中が続き、地域の地盤沈下に歯止めがかからない状態です。

一方で地方創生の重要性は、若い世代を中心に浸透しはじめ、新たな地方創生事業へのチャレンジも増加しています。

SIIFでは、地域が抱えている構造的課題に直接アクセスし、構造改善することで解決するアプローチを実践、支援しています。

OPPORTUNITY GAP

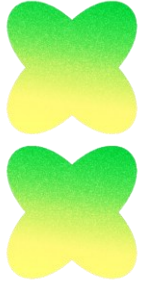
機会格差



機会格差とは、自ら望む人生を選ぶチャンスに大きな差が生まれること。子どもの貧困、社会的孤立、教育不平等など、さまざまな格差によって生み出されるこの課題は、経済活動がその原因でもあり、解決策にもなり得ます。顕在化した格差を解消するイノベーションを支援するとともに、企業経営における人的資本投資の促進や行政の意思決定プロセスとの連携も含めた「社会的包摂」を実現するための取り組みを模索することを目的としています。

HEALTHCARE

ヘルスケア



世界最速で人口減少と高齢化が進む日本では、所得や地域による健康格差が広がっています。

医療・介護領域における人手不足、低所得率、社会的孤立の問題など、医療・介護制度や産業構造の転換を試みるだけでなく、一人ひとりの身体的・精神的な健康をできる限り維持・向上できるように、個々人の認識と相互扶助のありかたの変化を並行して促進する取り組みを模索しながら、支援を続けています。

3つの戦略

インパクト・エコノミー実現に向けたシステムチェンジの実践・知見の触媒

01

事例・実績づくり

注力する社会課題領域において
実際に社会変革につながる
シンボリックな事例をつくる

02

実践知づくり

多様な実践から得られた学びを、
「体系化した知見・ノウハウ」として
広く社会に提示し、共有する

03

場づくり

新しい経済を志向する多様な
実践者が、学び合える場を創出し
ネットワーク化を促進する

これまでの実績

インパクト投資

ハンズオン支援と能力強化を通じて、
60社以上のポートフォリオ企業を支援



共同研究・国際連携

オックスフォード大学スコール・センターと協働し、
日本のインパクト・エコノミーの10年の歩みをたどる
ケーススタディおよびドキュメンタリー・シリーズを
共同制作



官民連携（PPP）

日本政府主導の分野横断型プラットフォーム
「インパクト・コンソーシアム」の運営協力



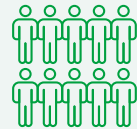
国際会議

京都で世界各国の有識者や実務家向けに「GSG
インパクト・グローバル・リーダーシップ・
ミーティング（GLM）」を開催



民間セクター向け

「インパクト志向金融宣言※」を立ち上げ、
2025年3月時点で、84社が参画



※2025年4月より独立

パブリック・エンゲージメント

日本で「ソーシャル・インパクト・デイ」を共催
大阪・関西万博でジェンダー平等に関する
ハイプロファイルイベントを開催



03 Culture & People



3つのバリューとそこに込めた想い

#01

giveから始めよう

信頼は、先に差し出すことで生まれる。知見、リソース、時間——まずは自らを開き、惜しみなく「与える」ことから関係が始まります。相手を想い、見返りを求めず行動する姿勢が、変化の連鎖を生み出します。

#02

旗を立てよう

「何のために、なぜやるのか」を明確に言葉にし、旗として掲げることで、仲間と未来を引き寄せます。不確実な時代だからこそ、自分の意志を表現し、共感を軸に人や組織をつなぐ力が求められています。

#03

まず一步踏み出そう

完璧を待つより、まずは動いてみる。その小さな一歩が、思いもよらない変化を呼び込みます。挑戦の連続にこそ学びと進化があり、行動することでしか見えない景色があると私たちは信じています。

メンバーインタビュー1

1/2



事業部インパクト・オフィサー

齋藤 匠 (2023年4月入所)

TAKUMI SAITO

社会課題を解決するため、多様な手段で実行に移していける

私は、政府系金融機関から出向という形でSIIFに参画し、2年間の任期後SIIFの採用面接を受けて、2025年4月に正式に職員となりました。前職では中小企業や個人事業主の方々への融資を担当していましたが、元々ソーシャルビジネスや社会課題の解決といった分野には強い関心を持っていました。

SIIFに来て最もおもしろいと感じたのは、型にとらわれずに新しいものを生み出していくスタイルです。前職では感じるのが難しかった、自分自身で責任を持って物事を決め、進めていくという経験ができています。これは裁量が大きいとも言えますが、社会課題の解決という大きなミッションに向けて、チームで知恵を絞り、手段を選ばずに実行に移していくプロセスそのものが、私にとって大きなやりがいになっています。

以前は、お金を融資することがゴールで、その先どう使われ、どのような効果が生まれたのかを検証できないことにもどかしさを感じていました。しかしSIIFでは、お金を投じるのはあくまでスタートラインです。そこからが本当の勝負であり、金融は課題解決のための数ある手段の一つに過ぎません。この本質的なアプローチこそが、SIIFの強みだと感じています。

メンバーインタビュー1

2/2



事業部インパクト・オフィサー

齋藤 匠 (2023年4月入所)

TAKUMI SAITO

現場での変化を、政策提言など『空中戦』に繋げていきたい

現在の私の仕事は、大きく二つの軸で構成されています。一つはインパクト投資の実践と、投資先への伴走支援です。そしてもう一つが、社会の仕組みそのものを変革する「システムチェンジ」に向けた取り組みです。こちらは、投資活動に加えてさまざまなステークホルダーを巻き込み、社会課題解決をプロデュースし、加速させていく役割を担っています。

この仕事で特にワクワクするのは、人と社会が変化する瞬間に立ち会えることです。担当する支援先の方々と顔の見える信頼関係を築き、「この人たちのために頑張りたい」と心から思えること。そして、当初は社会課題に無関心だった方が、私たちとの対話を通じて課題を「自分ごと」として捉え、自らの言葉で語り始める瞬間です。そうした変化を見ると、より良い社会の実現に向けた確かな希望を感じます。

今後は、こうした現場での学び、いわば「地上戦」で得た知見を、政策提言や業界全体の変革といった、より大きな動きである「空中戦」へと繋げていきたいと考えています。現場で生まれる小さな変化を、社会全体を動かす大きなうねりへと増幅させていくこと。それが私の次の挑戦です。

メンバーインタビュー2

1/2



知識創造部
インパクト・エコノミー・ラボ
インパクト・カタリスト

田中 愛也 (2025年11月入所)

AYA TANAKA

自分の問題意識とSIIFの目指す方向性が重なっていた

前職は再生可能エネルギーのベンチャー企業で「気候変動や地域の課題解決に貢献したい」という思いから、5年間働いていました。そこでは、地域に寄り添ったエネルギー事業を実現するため、ファイナンスや新規事業開発に携わっていました。

一方で、再生可能エネルギーの分野は、制度やパブリックイメージなど、事業活動にさまざまな制限が生じる場面にも直面しました。そうした経験を重ねる中で、次第に「一つの事業会社でできることには限界があるのではないか」と感じるようになりました。

つまり、問題は個別の事業会社にあるのではなく、社会全体の仕組みや価値観にあるのではないかと、ということです。例えば、エネルギーの問題も事業者側の努力だけではなく制度のあり方に関わる部分が大きかったり、投資家の視点自体がもっと変わっていく必要があるのではないかと、考えるようになりました。

SIIFのことを知ったのは、「インパクト評価」について調べていたときです。それまでの私は、非営利組織で働くことを具体的にイメージしたことはありませんでした。しかし、SIIFについて詳しく調べていくうちに、自分が抱いていた問題意識とSIIFが目指している方向性が重なっていることに気づき、入所を決意しました。

メンバーインタビュー2

2/2



知識創造部

インパクト・エコノミー・ラボ
インパクト・カタリスト

田中 愛也 (2025年11月入所)

AYA TANAKA

現場の視点を持ち続けた上で、制度にアプローチできる人材になりたい

現在、私はインパクトエコノミーの実現を目指すグローバルなネットワークGSG Impactの日本支部であるGSG Impact JAPAN National Partnerの事務局を担当しています。ボードメンバーと共に、日本社会をより良くするための戦略を考え、企画・実行をリードする役割です。

SIIFでの活動を通じて、今後は政策提言など、より大きな仕組みに働きかけることにも挑戦したいと考えています。SIIFがこれまで投資や事例創出を通じて蓄積してきた知見を、社会に目に見える形で影響を与えられる力に変えていきたいと思っています。

社会課題には、地域に根ざしたのもあれば、国境の枠組みを超えて取り組むべきものもあります。GSGが持つグローバルなネットワークも活用しながら、政府などへの効果的なアプローチを仕掛けていきたいと考えています。

その上で私が大切にしたいのは、事業会社時代に培った「現場の視点」です。制度へのアプローチを考える際にも、現場で奮闘する人々の思いや実情から乖離してしまうと、本来解決したかった問題を置き去りにしてしまう可能性があります。問題の根本と、表面に現れている課題の両方に向き合いながらアプローチしていきたいと考えています。

まだ入所して半年ですが、これからSIIFの事業部の活動にも関わりながら、常に現場感覚を研ぎ澄ませ、制度と現場、両方の視点を持って社会課題の解決に貢献できる人材になることが目標です。

メンバーインタビュー3



海外連携部 グローバルヘッド

菅野 文美 (2017年7月入所)

FUMI SUGENO

システムチェンジのインパクトを世界へ繋ぎ、広げていく

1/2

グローバルチームは、SIIFの活動を世界に広げ、また世界の知見を日本に還元するためのハブとして機能しています。その活動は、「グローバルなコミュニティの構築」「知の創造と循環」「実践の協働」の3つの柱で成り立っています。

「グローバルなコミュニティの構築」では、経済や社会の構造的課題に取り組む世界中のチェンジメーカーたちが繋がり、学び合い、協働できるようなコミュニティづくりをしています。例えば、アジアのインパクト投資家たちが集まるカンファレンスを日本で共催するなど、グローバルレベルでの関係性構築を積極的に進めています。

「知の創造と循環」は、言葉の壁を乗り越え、SIIFが取り組むシステムチェンジの活動を海外の方に知っていただくため、英語のウェブサイトや記事の作成、海外カンファレンスなどを行っています。最近では、オックスフォード大学と共に、日本のインパクトエコノミー構築における10年間の学びをまとめたケースシリーズも制作しました。

システムチェンジと金融を掛け合わせるというアプローチは、グローバルでもまだ新しい分野です。そのため、世界各国の実践者やアカデミアの方々と共に、その方法論や知見を共同開発しています。MITなどが発行するペーパーにSIIFの事例を提供するなど、私たちの学びを世界と共有しています。

そして最後が、海外パートナーとの実践の協働です。例えば「海」に関するプロジェクトでは、日本を超えてアジア、グローバルというレベルでシステムチェンジを起こすために、海外のパートナー組織と具体的な連携を進めています。

メンバーインタビュー3



海外連携部 グローバルヘッド

菅野 文美 (2017年7月入所)

FUMI SUGENO

2/2

人の心を動かすのは"I"の情熱、社会を動かすのは"We"の共創

この仕事の醍醐味は、様々な国で素晴らしい活動をされている方々と連携する中で、自分たちの視座が上がり、視野が広がっていくことを実感できる点にあります。行き着くところは人と人との関係性であり、素晴らしい出会いに恵まれていることに日々感謝しています。

海外の方々と関係を築く上で、私が常に意識しているのは「I」と「We」の使い分けです。関係性は「I」から始まります。組織の一員としてではなく、個人として、自然体でオープンに、自分が何をしたいのかという情熱を伝えること。「組織に言われてやっています」という姿勢では、人の心は動きません。

一方で、実際に物事を動かすためには、社内外の多くの人々を巻き込んでいく「We」のアプローチが不可欠です。特に日本では「みんなで一緒にやる」という姿勢が大切にされます。また、自己主張の強い文化だけでは分断が広がるばかりの現代において、異なる人々を繋ぐ「We」のアプローチは、世界にとっても価値があると信じています。

今後、私たちが目指すのは、SIIFが「真のグローバルな組織」になること。それは、単に世界各国で投資をするということではなく、環境問題も、地域の問題も、その境界線は国境を越えて繋がっています。システム全体の繋がりを理解し、各国のパートナーと連携しながら相乗効果を生み出せるような、しなやかなネットワークを構築していきたいと考えています。

勤務形態・福利厚生など

勤務形態



週3回以上入社・
ハイブリット勤務



裁量労働制 or
フレックスタイム導入



正職員時短勤務制度



副業許可制

福利厚生



リロクラブ福利厚生倶楽部加入



私傷病休暇（有給）



子の看護休暇（有給）



介護休暇（有給）



日本財団の食堂利用可
（補助あり）

年間行事



月次社内交流会（勤務時間内）



国内宿泊合宿



日帰り合宿



ファミリーデー



その他

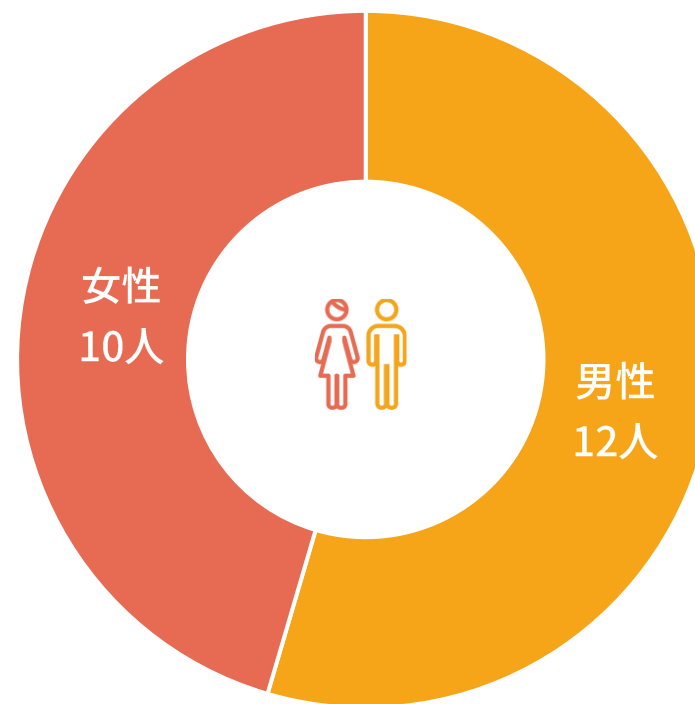
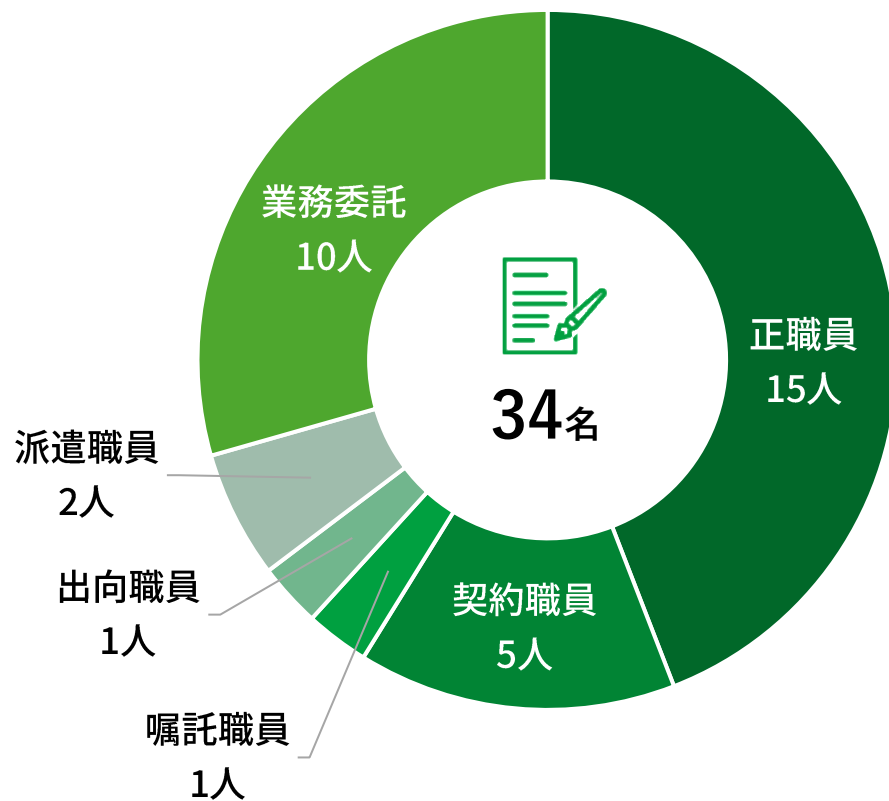
04

SIIFにまつわる数字

※2025年11月1日時点

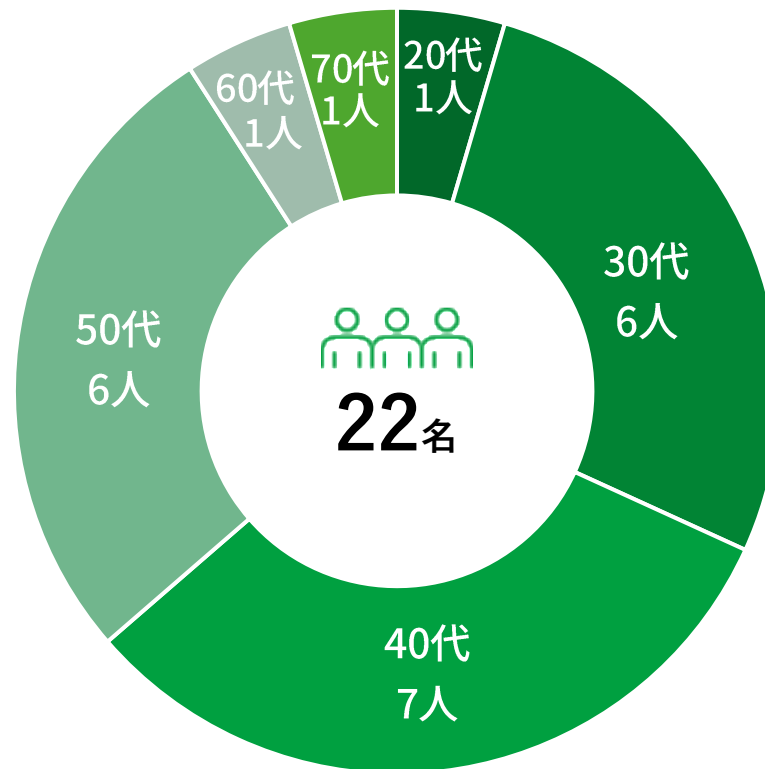


SIIFメンバーの契約形態分布・性別分布



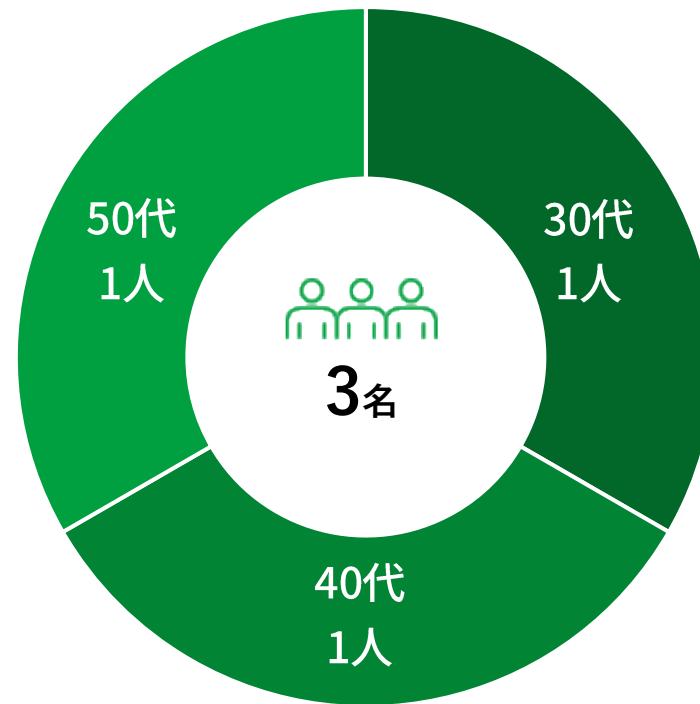
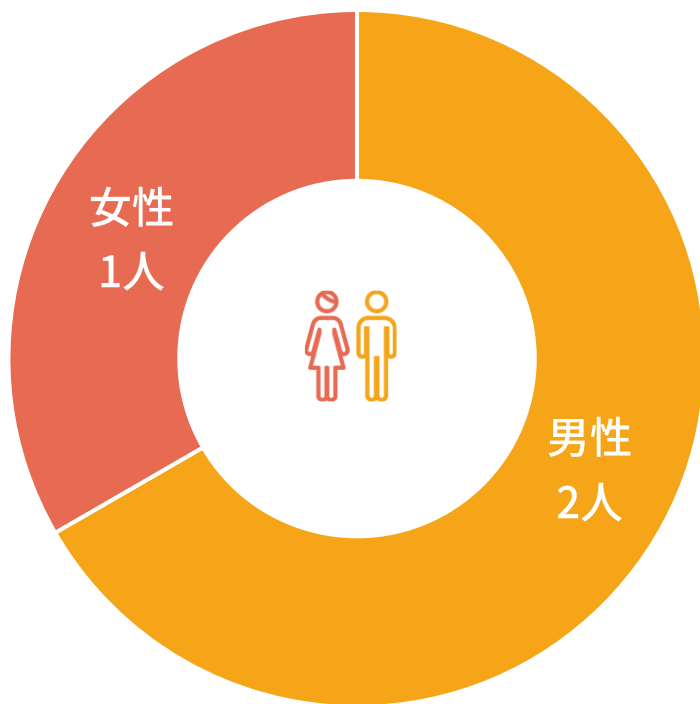
※上記グラフは直接雇用となる正職員・契約職員
・嘱託職員・出向職員の数を示しています

SIIFメンバーの年代分布

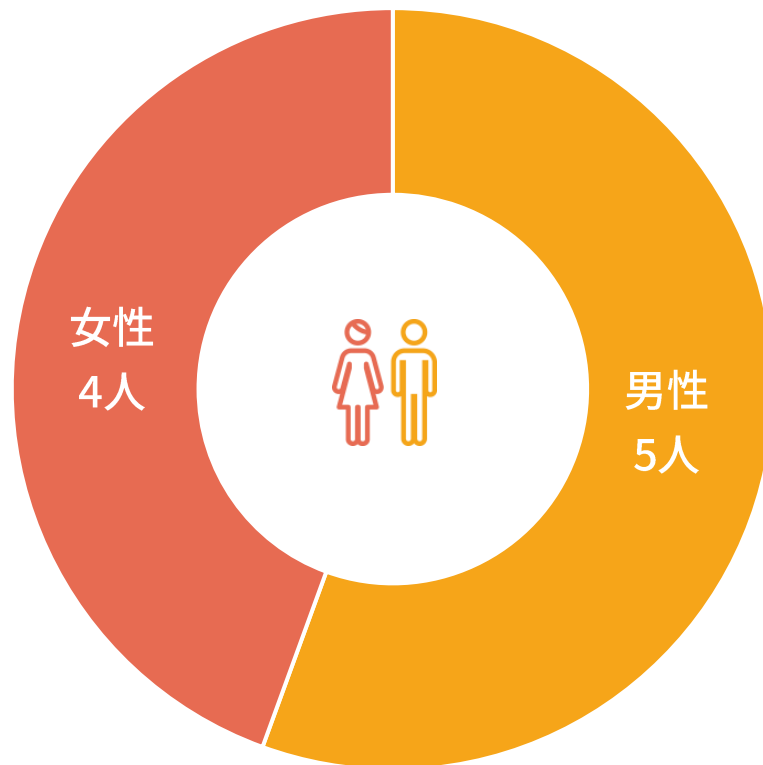


※上記グラフは直接雇用となる正職員・契約職員・嘱託職員・出向職員の数を示しています

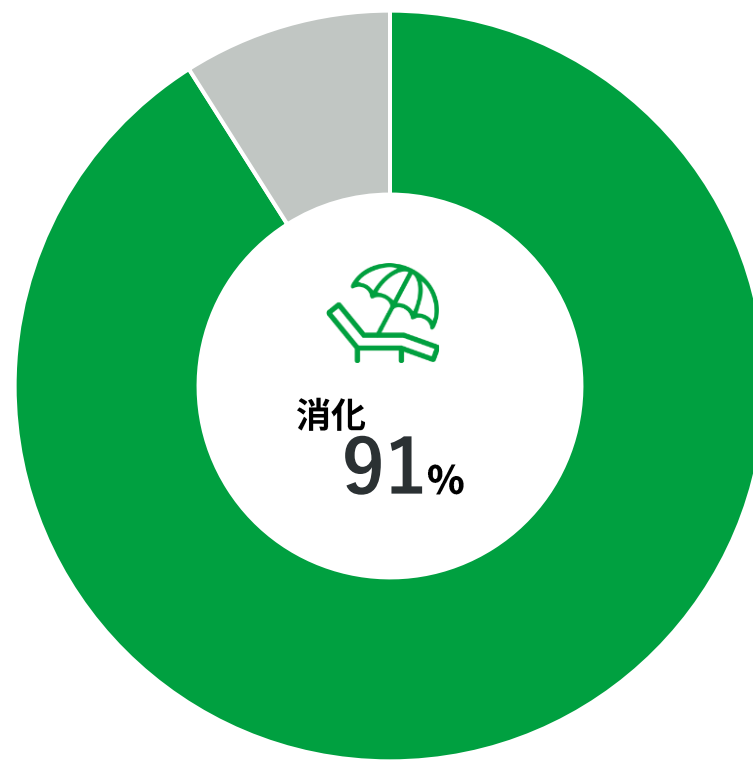
管理職男女比率・管理職年代分布



未成年子育てメンバー数



有休消化率



2024年実績

05 FAQ



FAQ - 採用活動において(応募前に関して)

Q1

応募資格には年齢・学歴・経験などの制限はありますか？

いいえ。年齢、学歴、職歴を問わず、SIIFでは「社会をよりよくしたい」という志を持ち、自ら考え行動できる方を歓迎しています。ご自身のバックグラウンドにとらわれず、ぜひご応募ください。

Q2

複数のポジションに同時に応募できますか？

可能です。ご関心やご経験に応じて、複数ポジションへ同時に応募いただけます。それぞれのポジションに対する志望動機をご記入ください。

Q3

インターンや新卒採用は行っていますか？

歓迎しています。現時点で定期的な枠は設けておりませんが、インターンや新卒の方からのご応募・ご相談も随時受け付けています。まずはお問い合わせフォームよりご連絡ください。

FAQ - 採用活動において(応募から選考プロセスに関して)

Q4

応募から内定までの選考プロセスを教えてください。

個別設計です。

ポジションやご経歴に応じて柔軟に対応していますが、一般的には書類選考と複数回（オンライン含む）の面談を通して、相互理解を深めながら進めていきます。

Q5

選考にどのくらいの期間がかかりますか？

目安は1か月程度です。

進行状況やご都合により異なりますが、最短で約1か月を想定しています。個別に柔軟なスケジュールリングが可能です。

Q6

オンラインでの選考は可能ですか？

はい。面談はオンラインにも対応しています。ご勤務中の方や遠方の方もお気軽にご相談ください。

FAQ - 採用活動において(応募から選考プロセスに関して)

Q7

勤務地の変更や転勤の可能性はありますか？

勤務地は東京都内（区内）です。事務所は同一区内で移転予定です。転勤の予定はなく、出社は週3回以上を基本に、リモートも併用しています。

Q8

勤務時間や働き方の制度について教えてください。

裁量労働制やフレックスタイム制を導入しています。午前7時～午後10時の間で、柔軟に働くことが可能です。

Q9

副業は可能ですか？

許可制で対応しています。利益相反や稼働状況を踏まえた上で、副業の可否を個別に判断しています。

FAQ - 採用活動において(待遇・福利厚生に関する質問)

Q10

給与体系や昇給制度について教えてください。

年俸制（12分割）を採用しています。基本年俸・業務手当を含み、職務内容・能力・実績・年齢などを総合的に考慮して個別に決定。昇給は原則毎年4月に見直しを行っています。
詳細については、SIIFの[就業規則](#)および[賃金規程](#)をご参照ください。

Q11

福利厚生にはどのような制度がありますか？

社会保険完備に加え、各種サポートがあります。通勤手当、育児・介護休業、ヘルスケア休暇のほか、定期的なアンケートに基づき、希望者には産業医との面談も実施しています。

FAQ - 採用活動において(その他)

Q12

入社後のオンボーディングや研修はありますか？

オンボーディングを丁寧に行います。

入職後約1カ月をかけて、組織理解、配属先での業務説明、コンプライアンス、人事制度などを段階的にご案内します。

Q13

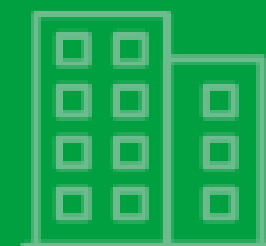
多様性やインクルージョンに関する取り組みはありますか？

柔軟な制度で多様な働き方を支援しています。

在宅勤務や裁量労働制、フルフレックス、時短勤務などを整備し、看護・介護休暇も法定以上の運用を可能に。

多様な背景を持つメンバーが力を発揮できる環境づくりに取り組んでいます。

06 組織概要



公益財団法人社会変革推進財団

名称

公益財団法人 社会変革推進財団 (SIIF)
EN : Japan Social Innovation and Investment Foundation

所在地

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目11番28号 6階

Contact

Mail : saiyo@siif.or.jp Tel : 03-6229-2622

オウンドメディア

JP :



ENG :



Medium

